

全閉型鋼管推進工
(ブロックボーリング工法)

標準積算資料
(2024年版)

Block Boring協会

目 次

1. 全閉型鋼管推進工の特徴	1
2. 積算基準	1
3. 土質分類	3
4. 推進距離	4
5. 日進量	5
6. 使用鋼管	5
7. メタルクラウン単価	6
8. 機械据付時の測量基準	6
9. 到達精度の基準	6
10. 機械仕様	6
11. 機械損料	7

工事内訳

工事内訳	8
A-1 全閉型鋼管推進工	8
A-2 本管布設工	9
B-1 鋼管推進工	9
B-2 滑材注入工	10
B-3 管内排土・清掃工	10
B-3-1 管内排土(人力工)	11
B-4 坑内仮設設備設置工	11
B-5 鏡切り工	12
B-6 坑口止水工	13
B-7 キングストッパー取付工	14
B-8 坑内仮設設備撤去工	14
B-9 水替工	15
B-10 刃口取付工	15
B-11 刃口撤去工	16
B-12 切断加工	17
B-13 スペーサー加工	17
固定金具加工・取付	18
B-14 挿入工	18
B-15 閉塞工	19
B-16 中詰注入工	19
B-16-1 器具損料(中詰注入工)	20
B-1-0 散水車運転	20
B-1-1 発電機運転	21
B-1-2 クレーン付トラック	21
B-1-3 機械損料	22
B-1-4 キングストッパー損料	22
B-1-5 ダンプトラック運転	23
B-18 機械搬入工	24
B-19 機械搬出工	24
B-20 本管(人孔)接続工(ハンドコア抜き工)	25
B-21 本管(人孔)接続工(はつり工)	26
B-22 本管(人孔)接続工(コア抜き工)	27
B-22-1 コア抜き器具損料	28

1.全閉型鋼管推進工の特徴

- 1.刃口壁面に土圧をかけながら推進できる。
- 2.滞水層や、推進管の土被りが浅い場合や、埋設管との離隔が少なくても可能。
- 3.推進管路上部の地盤を崩さないで将来の陥没の心配がない。
- 4.設備がコンパクトです。
- 5.先導管(先頭管・メタルクラウン)の回収が必要ないので到達側の条件に制限がない。
- 6.推進ジャッキは低圧推進のため支圧壁を作る必要がない。

全閉型鋼管推進工法は、一重ケーシングを回転推進していくボーリング工法です。
従来のボーリング工法に見られた軟地盤での崩壊を誘うという欠点を克服しました。鋼管内に
キングストッパーという可動型のシールド機を挿入し、全閉式で推進が可能になりました。これに
よって鋼管推進が安全に施工できるようになりました。※1

都市部で懸案になっている雨水対策としての流域幹線と既存管との接続工事がこれで管路の地盤
改良なしで計画できます。

※2

接続本管への到達壁に食込ませる場合など、振動や湧水による作業中の土砂の崩壊を防ぐのに効果が
発揮できます。

地下水流出に伴って起きる土砂の流出を防ぎ、地盤改良にかかるコストを抑え、地盤のゆるみや
空洞による周辺地層への影響や薬剤による流域水路への環境破壊を最小限にすることを目的にした
安全な工法です。

2.積算基準

- (1) 積算の基準は発進坑から到達坑への水平推進とします。
基準以外の到達工(本管接続工および人孔接続工)については別途加算(検討)とします。
別途加算 B-20・B-21・B-22(接続工)は接続方法にて選択します。
(本管・人孔内部に入坑でき、作業足場が確保出来る場合の施工となります)
- (2) 本積算資料は推進機BB-1、BB-2、BB-2.5(使用鋼管径400A～900A)です。
推進機BB-3、BB-4(使用鋼管径800A～2400A)については大口径積算資料を参照して下さい。
※鋼管径φ400～φ700でも推進距離・土質により推進機BB-3・BB-4を使用する場合があります。
- (3) 積算基準の考え方
さや管径は到達精度が基準です。(標準 5mm/m)
管長を選び、精度により管径を選びます。管径と管長により日進量が決まります。

鋼管長により到達精度	： 使用鋼管長 1.00m以上で	5パーセントミリ
	使用鋼管長 0.6m以上～1.00m未満まで	7パーセントミリ
	使用鋼管長 0.6m未満で	9パーセントミリ

(例) 本管 塩ビ管 φ500を10m施工する場合
(塩ビ管 φ500(JIS K674)はソケット部分、外径でφ554)

土質「粘土・シルト」又は「砂・砂礫」、使用鋼管長 1.0m以上で 到達精度誤差 5‰ 以内です。
(土質分類や鋼管長等により到達精度が異なります)

$\phi 554 + 5\text{‰} \times 10\text{m} \times 2 < \text{鋼管内径}$
= $\phi 654 < \text{鋼管内径}$ よって使用さや管径 φ700(内径φ692.2) になります。

使用鋼管長 0.75m以上で 到達精度誤差 7‰ 以内です。

$\phi 554 + 7\text{‰} \times 10\text{m} \times 2 < \text{鋼管内径}$
= $\phi 694 < \text{鋼管内径}$ よって使用さや管径 φ800(内径φ793.8) になります。

使用鋼管長の違いにより、さや管(鋼管)径が替ります。

(さや管(鋼管)径表は別資料、ブロックボーリング技術資料を参照して下さい)

(4) 発進坑と使用鋼管長表(標準、鋼製ケーシング(ケコム)立坑) (単位:m)

発進坑 呼び径	φ 1500 (ケーシング)	φ 2000	φ 2500
φ 400	0.50	0.75	1.00
φ 500	0.40	0.75	1.00
φ 600	0.40	0.75	1.00
φ 700	0.40	0.70	1.00
φ 800		0.60	1.00
φ 900		0.60	1.00

ライナープレートの場合や諸条件により、使用鋼管長が短くなる事があります。

発進立坑が鋼矢板や小判型の場合は推進方向の寸法を上記の径にあてはめて下さい。

(5) 日進量は土質条件を加味して設定しています。

(6) 立坑深さは特に限定を設けませんが、配線・配管器具類は8mを基準としています。8mを超える場合は、該当項目(日進量、管内排土、坑内仮設設備設置工・撤去工、坑口止水工、接続工、機械損料、キングストッパー損料)に加算します。

また立坑条件(深さ・形状等)により別途クレーン費を加算します。

(7) 発進坑 φ 1500は特殊採用とし鋼管径 φ 700A以下、推進距離10m未満、立坑深さ8m未満とする。

採用時の日進量は発進坑 φ 2000の70%とします。

採用については事前にブロックボーリング協会に御相談ください。

(8) この積算資料にない条件の工事は全て事前協議が必要となりますので、ブロックボーリング協会に御相談ください。

(※1キングストッパーは土砂の流入を防ぐものであり完全止水ではありません)

(※2大深度においては、全断面地盤改良の検討が必要な場合があります)

3.土質分類

土質分類	参考N値	礫径	礫混入率	障害物分類
粘土・シルト	$N \leq 10$			
砂・砂礫	$N \leq 25$	75mm以下	50%未満	木類
玉石混入層	$25 \leq N$	300mm以下	30%未満	コンクリート類
転石・軟岩	$40 \leq N$	300mm以上		鋼製類

砂・礫(20mm未満)の混入率が20%未満でN値が10以下の場合は、「粘土・シルト」の分類とします。

礫径75mm以上から300mmまでの礫を「玉石」とします。

礫径が300mm以上を「転石」とします。

土質が互層、あるいは障害物がある場合などは2種以上の土質の割合の換算になります。

・下位土質との互層であっても、玉石混入層が50%を超える場合は「玉石混入層 100%」とします。

・下位土質との互層であっても、「転石・軟岩」層が30%以上の時は「転石・軟岩 100%」とします。

障害物の種類・条件等により、推進距離・日進量は変わります。

注：工法の特長から障害物があるというのが十分考えられますが、あえて障害物を別分類と設けずに転石や岩盤と同様なものとみなしています。鉄と石は異質なものですが、刃先を換えることで同じような日進量になります。細分化は出来ませんが積算が煩雑になるため同じ分類にしました。

切り抜いた障害物は形状により管内からの撤去が困難な場合があり、鋼管径及び撤去方法等の検討が必要な場合があります。

4.推進距離(標準)

(単位:m)

機種	土質	鋼管径				(鋼管径の単位はmm)	
		φ 400	φ 500	φ 600	φ 700	φ 800	φ 900
BB-1	粘土・シルト	12	10	8	6	5	
	砂・砂礫	10	8	6	5	★	
	★玉石混入層	★	★	★	★	★	
	★転石・軟岩	★	★	★	★	★	
BB-2	粘土・シルト	18	16	14	12	10	
	砂・砂礫	15	12	10	9	8	
	★玉石混入層	★	★	8	7	7	
	★転石・軟岩	★	★	7	7	7	
BB-2.5	粘土・シルト	24	21	18	15	12	10
	砂・砂礫	20	18	15	12	10	8
	★玉石混入層	★	★	10	9	8	7
	★転石・軟岩	★	★	7	7	7	7

転石・軟岩は推進機能力とメタルクラウン(刃先)の摩耗を考慮した推進距離です。

玉石混入層の場合は到達精度が低下します。

互層の場合は、土質割合にて推進可能距離を判断しますが、施工可能を保証するものではありません。

立坑条件・被水圧・粒度分布・岩盤の種類・一軸圧縮強度等により推進距離は変わります。

一軸圧縮強度の低い軟岩や風化の激しい岩盤等においては、施工方法を検討する事により、推進距離が伸びる可能性がありますので、ブロックボーリング協会に御相談ください。

★印の施工については別途協議が必要です。又、条件により、施工可能距離は変わります。

5.日進量

5-1.鋼管推進日進量(標準)

(m/日)

発進坑 呼び径	φ 2000				φ 2500以上			
	粘土・シルト	砂・砂礫	玉石混入層	転石・軟岩	粘土・シルト	砂・砂礫	玉石混入層	転石・軟岩
φ 400	2.80	2.70	1.45	1.00	3.30	3.20	1.70	1.20
φ 500	2.40	2.30	1.20	0.85	2.80	2.70	1.40	1.00
φ 600	2.15	2.05	1.00	0.70	2.50	2.40	1.20	0.80
φ 700	1.80	1.70	0.80	0.55	2.20	2.10	1.00	0.70
φ 800	1.45	1.35	0.60	0.45	1.90	1.80	0.80	0.60
φ 900	1.30	1.20	0.50	0.35	1.70	1.60	0.70	0.50

①土被り深さが8mを超える場合は 0.85 を補正係数として乗じる。(以下段階的に補正有り)

②車上プラント及び施工条件により 0.8 を補正係数として乗じる。

③立坑条件や使用鋼管長により補正係数に乗じる。(標準管長 1.0m)

④発進坑 φ 1500の場合は発進坑 φ 2000の日進量の 70% とします。

5-2.塩ビ管・FRPM管挿入日進量(標準)

(m/日)

管 種	塩ビ管								FRPM管径	
管 径	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450	φ 500	φ 600	φ 600	φ 700
挿入日進量	15.00	14.00	13.00	12.00	11.00	10.00	8.00	6.00	5.00	4.00

1本の管長は 2.0m とする。

管長が 2.0m 未満の場合は、日進量×(管長÷2)として計算する。

立坑深さ等条件により、補正係数として乗じる。

6.使用鋼管

鋼管は「JIS G 3444 STK400/JIS G 3457 STPY400」を使用します。

使用鋼管の厚み(標準)

φ 400 ~ φ 600 まで t=7.9

φ 700 ~ φ 900 まで t=9.5 を使用します。

(土質・土被り・推進距離により鋼管の厚みは変わります。)

鋼管径				①	②	① + ②
呼び径	外径(標準)	厚み(標準)	重量(1.0m)	単価(1.0m)	面取り加工	標準価格
φ 400	406.4	7.9	78	29,300	6,400	35,700
φ 500	508.0	7.9	97	35,700	8,000	43,700
φ 600	609.6	7.9	117	42,300	9,600	51,900
φ 700	711.2	9.5	164	79,100	20,100	99,200
φ 800	812.8	9.5	188	90,000	23,000	113,000
φ 900	914.4	9.5	212	100,700	25,800	126,500

鋼管長が異なる場合は1mを基準にし長さの増減率を①の単価に掛け合わせて算出する。

管長変更時は②の面取りは変化のないものとします。(厚みが変わる場合は面取り価格も変化します)

鋼管の厚みを変更する場合は 板巻き鋼管(SS-400) を使用し、鋼管内径合わせにする場合があります。

※材料費が高騰した時など単価が変動する場合があります。

7.メタルクラウン単価

管径	標準単価
φ 400	173,900
φ 500	233,400
φ 600	272,400
φ 700	391,900
φ 800	461,300
φ 900	518,400

玉石混入層又はコンクリート障害物がある場合は 1.25倍

転石、岩盤又は 鉄材障害物がある場合は 1.5 倍 とします。

※材料費が高騰した時など単価が変動する場合があります。

8.機械据付時の測量基準

発進側中心と到達側中心の測量を行う。マンホールおよび立坑の傾きがあるので下水基準点から芯線を引っ張ってくる。水平レベルを測量し機械の芯位置を確認する。

芯線より垂直に法線を降ろし、機械芯と合わせる。以上をトランシット、レベルなどの測量機械を利用して慎重に行い、機械を据付ける。

9.到達精度の基準

さや管(鋼管)径と本管径の径差は「2.積算基準(3)」に述べたように以下の到達誤差を判断の尺度します。

標準として 使用鋼管長 1.0m で「5パーセントミリ」の誤差が生じると考えます。

使用鋼管長が短い時や、土質が玉石混入の場合は誤差が大きくなります。

礫・玉石や障害物の有り・無しを考慮し、さや管(鋼管)径を選定します。

10.機械仕様

型 式	BB-1	BB-2	BB-2.5	
使用発電機	60KVA	60KVA	125KVA	
適応鋼管径	最大 φ 800	最大 φ 800	最大 φ 900	
設置最小立坑	φ 1500(ケーシング)	φ 2000	φ 2000	
回転トルク	2,520 kgf-m	4,200 kgf-m	5,040 kgf-m	
推進ジャッキ(推力)	20.0 t	20.0 t	20.0 t	
推進機 重量	1,250 kg	1,400 kg	1,700 kg	
原動機 (油圧ユニット)	回転	30.0kw	60.0kw	
	推力	7.5kw	7.5kw	
油圧ユニット 重量	1,000 kg	1,000 kg	回転	2,100 kg
			推力	800 kg

11.機械損料

推進機、機械損料

推進機種	基礎価格 (千円) 油圧ユニット キャブ・タイヤ込	耐用 年数 (年)	年 間 標 準			維持 修理 費率 (%)	年間 管理 比率 (%)	供用1日 当り		運転1時間 (換算値)		運転1日当り (換算値)	
			運転 時間 (時)	運転 日数 (日)	供用 日数 (日)			損率 ($\times 10^{-6}$)	損料 (円)	損率 ($\times 10^{-6}$)	損料 (円)	損率 ($\times 10^{-6}$)	損料 (円)
BB-1	16,000	10	540	80	120	0.8	10	1208	19,333	500	8,000	3375	54,000
BB-2	24,120	10	540	80	120	0.8	10	1208	29,145	500	12,060	3375	81,405
BB-2.5	31,450	10	540	80	120	0.8	10	1208	38,002	500	15,725	3375	106,144

名称	諸元	出力	重量 (t)	基礎 価格 (千円)	耐用 年数 (年)	運転 日数 (日)	供用 日数 (日)	維持修 理費率 (%)	年間管 理比率 (%)	運転1日当り 換算値	
										損率($\times 10^{-6}$)	損料(円)
推進機ベース・レール				1,825	5	90	140	75	7	4449	8,119

補助機械器具損料

名称	諸元	出力	重量 (t)	基礎 価格 (千円)	耐用 年数 (年)	運転 日数 (日)	供用 日数 (日)	維持修 理費率 (%)	年間管 理比率 (%)	運転1日当り 換算値	
										損率($\times 10^{-6}$)	損料(円)
クレーン付トラック	2.9t吊	160ps	5.5	6,250	12	130	160	40	13	1837	11,481
発電機	60KVA	76ps	1.6	4,620	10	110	120	30	8	1820	8,408
発電機	125KVA	170ps	3.2	7,350	10	110	120	30	8	1820	13,377
溶接機	300A	25kw	0.05	194	16	80	130	80	8	2330	452
溶接機	500A	25kw	0.2	357	16	80	130	80	8	2331	832
グラウトポンプ	60ℓ/m	7.5kw	0.4	1,280	12	80	130	70	8	2674	3,423
2重管(滑材)				98	2	90	140	75	10	10276	1,007
ホース(滑材)				98	2	90	140	75	10	10276	1,007
ダンプトラック	4t		4.0	4,600	10	140	180	45	13	1892	8,702
高圧洗浄機	8MPa	4kw	0.07	557	11	110	150	125	8	2504	1,395
水中ポンプ	φ50		0.01	103	10	100	140	115	8	2845	293
ミキサー	200L	2.2kw	0.4	832	12	80	130	60	8	2569	2,137

工事内訳

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
直接工事費	全閉型鋼管推進工	式	1.00			A-1
	本管布設工	式	1.00			A-2
小計						
間接工事費						
機械搬入工						B-18
機械搬出工						B-19
他の間接工事費は別途計上願います						万円未満切捨
計						

A-1 全閉型鋼管推進工

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
鋼管		本				時価
メタルクラウン		個				時価
塩ビ管 又は FRPM管		本				時価
ソケット		個				時価 (塩ビ管の場合)
固定金具 又は スペースー		個				
鋼管推進工		m				B-1
滑材注入工		m				B-2
管内排土・清掃工	汚泥吸引車	回				B-3
管内排土	人力工	m ³				B-3-1
坑内仮設設備設置工		ヶ所				B-4
鏡切り工		ヶ所				B-5
坑口止水工		ヶ所				B-6
キングストップ取付工		ヶ所				B-7
坑内仮設設備撤去工		ヶ所				B-8
水替工		m				B-9
刃口取付工		ヶ所				B-10
刃口撤去工		ヶ所				B-11 到達立坑の場合
本管(人孔)接続工	ハンドコア抜き工	ヶ所				B-20 本管(人孔)接続の
本管(人孔)接続工	はつり工	ヶ所				B-21 場合、計上
本管(人孔)接続工	コア抜き工	ヶ所				B-22 接続方法にて選択
計						

A-2 本管布設工

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
切断加工		本				B-12 FRPM管は無し
スペーサー加工		個				B-13 挿入方法にて選択
固定金具加工・取付		ヶ所				B-13
挿入工		m				B-14
閉塞工		ヶ所				B-15
中詰注入工		m ³				B-16
計						

B-1 鋼管推進工

1m当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	1.00			
特殊作業員		人	2.00			
溶接工		人	1.00(2.00)			鋼管φ800以上は2.0人
普通作業員		人	1.00			
散水車運転		日	1.00			B-1-0
発電機運転		日	1.00			B-1-1
クレーン付トラック	2.9t吊り	日	1.00			B-1-2
機械損料		日	1.00			B-1-3
キングストッパー損料		日	1.00			B-1-4
溶接機損料	300A 又は 500A	台	2.00			
4tトラック		台	1.00			BB-2.5車上プラントのみ
一般運転手		人	0.30			BB-2.5車上プラントのみ
ホイールクレーン	〇〇t吊り	日	1.00			立坑条件等により計上
計						(1日当り)
1m当り						計/日進量

B-2 滑材注入工

1m当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
滑材		ℓ				注入量表×日進量
グラウトポンプ	60ℓ/min	日	1.00			損料表
2重管損料		日	1.00			損料表
ホース損料		日	1.00			損料表
計						(1日当り)
1m当り						計/日進量

滑材注入量表(標準) 注入量 $=[(\text{管外径}+5\text{cm})^2-(\text{管外径})^2] \times \pi / 4$ (ℓ/m)

鋼管径	φ 400	φ 500	φ 600	φ 700	φ 800	φ 900
滑材注入量	34	42	50	58	66	74

礫・玉石混入層においては、注入ロスを考慮して混入率(○%)増とすることがあります。

推進距離が10mを超える場合は、注入率を30%増とします。

[標準注入量×1.0(礫・玉石混入率○%増)×1.3]

B-3 管内排土・清土工(人力排土のみの場合は、清土工のみ)

1回(5m³)当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	0.50(0.30)			清土工のみは0.3人
普通作業員		人	2.00(1.00)			清土工のみは1.0人
汚泥吸引車	大型又4t	台	1.00			
高圧洗浄機	8MPa	台	1.00			
散水車運転		台	1.00			B-1-0
計						

人力排土のみの場合でも、1回は清土工として計上します。

処理回数は総処理量を一回当りの処理量(5m³)で割り、端数を切り上げる。(汚泥吸引車、4tの場合は捨場が近くにあり車が往復できる場合のみ1台(日)で5m³ 処理とします。

(残土処分費は含まれませんので、別途計上をお願いします)

B-3-1 管内排土(人力)工

1m³当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				歩掛り表参照
特殊作業員		人				歩掛り表参照
普通作業員		人				歩掛り表参照
ホイールクレーン	〇〇t吊り	日				歩掛り表参照
ズリ出しバケツ		日				歩掛り表参照
コンプレッサー損料		日				歩掛り表参照
ダンプトラック運転	4t	日				B-1-5 & 歩掛り表
計						

汚泥吸引車にて作業困難な土質や大深度施工時に計上する。(併用あり)

人カズリ出し工 歩掛り表

1m³当り

名称 鋼管径	世話役	特殊 作業員	普通 作業員	クレーン	ズリ出し バケツ	コンプ レッサー	ダンプ
φ800～φ900	0.15	0.70	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35

立坑条件(深度・土質等)により、補正有ります。

B-4 坑内仮設設備設置工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量		単 価	金 額	備 考
				BB-2.5			
世話役		人	1.50	2.00			
特殊作業員		人	1.50	3.00			
溶接工		人	1.00	2.00			
鳶工		人	1.00	1.50			
普通作業員		人	1.50	2.00			
発電機運転		日	1.50	2.00			B-1-1
クレーン付トラック	2.9t吊り	日	1.50	2.00			B-1-2
溶接機損料	300A	日	1.50	3.00			損料表
溶接棒		kg	2.00	3.00			
酸素		m ³	3.00	5.00			
アセチレン		kg	0.80	1.30			
諸雑費		式	1.00				アセチレンの30%
計							

立坑深さが8mを越す場合は数量を 1.5倍 にします。(段階的に補正有り)

立坑条件等によりホイールクレーンを使用します。

B-5 鏡切り工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				歩掛り表参照
溶接工		人				歩掛り表参照
普通作業員		人				歩掛り表参照
諸雑費		式	1.00			
計						

諸雑費は労務費の10%を上限として計上する。

鏡切り工 歩掛り表

1m当り

(単位:m)

種目	土留種類 ライナープレート (t=2.3~3.2mm)	鋼 矢 板		
		Ⅱ 型	Ⅲ 型	Ⅳ 型
世話役	0.006	0.007	0.008	0.008
溶接工	0.051	0.057	0.059	0.061
普通作業員	0.019	0.022	0.022	0.023
諸雑費	労務費の5%	労務費の10%		

鋼管径	切断長
φ 400	2.6
φ 500	3.2
φ 600	3.6
φ 700	4.1
φ 800	4.6
φ 900	5.2

切断長は鋼矢板Ⅲ型の切断長を基準としています。

直径+5cmの円周及び4分割～8分割の切断長です。

鋼製ケーシングは鋼矢板Ⅲと同等と致します。

B-6 坑口止水工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
止水器	シングル・ダブル	組	1.00(2.00)			価格表
世話役		人				歩掛り表参照
溶接工		人				歩掛り表参照
普通作業員		人				歩掛り表参照
発電機運転		日				B-1-1 & 歩掛り表
クレーン付トラック	2.9t吊り	日				B-1-2 & 歩掛り表
溶接機損料	300A	日				損料表 & 歩掛り表
溶接棒		kg				歩掛り表参照
酸素		m ³				歩掛り表参照
アセチレン		kg				歩掛り表参照
諸雑費		式	1.00			
計						

止水器の数量は シングルの場合は1組 ダブルの場合は2組 とします。

発進坑から 到達坑の場合は 1スパン で2ヶ所、人孔・本管接続の場合は 1スパン で1ヶ所 とします。

標準として立坑深さが8m未満の場合はシングルを使用する。8mを越す場合はダブルを使用する。

上記の止水器取り付け条件は、施工条件を考慮し変更する場合があります。

諸雑費は労務費の10%を上限として計上する。

止水器価格表

1組当り

鋼管径	φ 400	φ 500	φ 600	φ 700	φ 800	φ 900
止水器価格	66,000	78,000	88,000	128,000	142,000	158,000

止水器がR加工の場合(円形立坑)、曲げ加工費を止水器価格に加算致します。

(R加工費は基本的には上記価格×1.25～1.50とし、特殊加工等は別途価格とします)

坑口止水工 歩掛り表

1ヶ所当り

鋼管径 \ 名称	世話役	溶接工	普通作業員	発電機運転	クレーン付トラック	溶接機損料	溶接棒	酸素	アセチレン
φ 400	0.08	0.62	0.90	0.34	0.36	0.34	1.80	0.85	0.15
φ 500	0.09	0.71	1.13	0.40	0.45	0.40	2.08	0.98	0.17
φ 600	0.11	0.81	1.36	0.45	0.54	0.45	2.36	1.12	0.19
φ 700	0.12	0.91	1.49	0.50	0.60	0.50	2.64	1.26	0.22
φ 800	0.13	1.01	1.63	0.55	0.65	0.55	2.92	1.40	0.24
φ 900	0.15	1.11	1.76	0.62	0.70	0.62	3.24	1.53	0.26

止水器がダブルの場合は各歩掛りを 1.5倍 にします。

立坑条件(深度等)により、補正有ります。

1ヶ所当り

キングストッパー(可動シールド機)取付工 歩掛り表

1ヶ所当り

1ヶ所当り

立坑深さが8mを越す場合は数量を 1.5倍 にします。(段階的に補正有り)

14

B-9 水替工

1m当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人	0.08			
水中ポンプ	φ 50	日	1.00			損料表
計						(1日当り)
1m当り						計/日進量

立坑深さが8mを越す場合は別途計上願います。(排水処理設備が必要な場合には別途計上願います)

B-10 刃口取付工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				歩掛り表参照
特殊作業員		人				歩掛り表参照
溶接工		人				歩掛り表参照
普通作業員		人				歩掛り表参照
発電機運転		日				B-1-1 & 歩掛り表
クレーン付トラック	2.9t吊り	日				B-1-2 & 歩掛り表
溶接機損料	300A	日				損料表 & 歩掛り表
溶接棒		kg				歩掛り表参照
諸雑費		式	1.00			
計						

諸雑費は労務費の10%を上限として計上する。

刃口取付工 歩掛り表

1ヶ所当り

名称 鋼管径	世話役	特殊 作業員	溶接工	普通 作業員	発電機 運転	クレーン付 トラック	溶接機 損料	溶接棒
φ 400	0.09	0.35	0.29	0.58	0.29	0.23	0.29	1.53
φ 500	0.11	0.44	0.36	0.73	0.36	0.29	0.36	1.91
φ 600	0.13	0.52	0.44	0.87	0.44	0.35	0.44	2.30
φ 700	0.15	0.61	0.51	1.02	0.51	0.41	0.51	2.68
φ 800	0.17	0.70	0.58	1.16	0.58	0.46	0.58	3.06
φ 900	0.20	0.79	0.65	1.31	0.65	0.52	0.65	3.45

B-11 刃口撤去工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				歩掛り表参照
溶接工		人				歩掛り表参照
普通作業員		人				歩掛り表参照
クレーン付トラック	2.9t吊り	日				B-1-2 & 歩掛り表
酸素		m ³				歩掛り表参照
アセチレン		kg				歩掛り表参照
諸雑費		式	1.00			
計						

諸雑費は労務費の10%を上限として計上する。

刃口撤去工 歩掛り表

1ヶ所当り

名称 鋼管径	世話役	溶接工	普通作業員	クレーン付 トラック	酸素	アセチレン
φ 400	0.03	0.20	0.32	0.24	0.62	0.11
φ 500	0.03	0.25	0.41	0.30	0.78	0.13
φ 600	0.04	0.30	0.49	0.37	0.94	0.16
φ 700	0.05	0.36	0.57	0.43	1.09	0.19
φ 800	0.05	0.41	0.65	0.49	1.25	0.21
φ 900	0.06	0.46	0.73	0.55	1.40	0.24

1本当り

切断加工 歩掛り表(塩ビ管)

1本当り

FRPM管の場合はソケット(継手)が付いている製品の単価とし、長さ調整等の切断加工費は別途計上と致します。

1個当り

17

B-13 固定金具加工・取付(小代価B-13は、挿入方法にて選択)

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	0.10			
溶接工		人	0.30			
普通作業員		人	0.20			
発電機運転		日	0.10			B-1-1
酸素		m ³	0.60			
アセチレン		kg	0.20			
溶接器損料	300A	日	0.20			損料表
溶接棒		kg	0.50			
諸雑費		式	1.00			アセチレンの30%
計						

B-14 挿入工

1m当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	1.00			
特殊作業員		人	1.00(2.00)			本管径φ600以上は2人
普通作業員		人	1.00			
クレーン付トラック		日	1.00			B-1-2
ホイールクレーン	〇〇t吊り	日	1.00			立坑条件等により計上
計						(1日当り)
1m当り						計/日進量

B-15 閉塞工

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	0.10(0.20)			鋼管径φ800以上は0.20
特殊作業員		人	0.40(0.80)			鋼管径φ800以上は0.80
普通作業員		人	0.40(0.80)			鋼管径φ800以上は0.80
止水材料		缶	1.00(2.00)			鋼管径φ800以上は2.00
諸雑費		式	1.00			止水材料×20%
計						

B-16 中詰注入工

1m³当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
注入材料		m ³	1.00			
世話役		人	0.50			
特殊作業員		人	0.50			
普通作業員		人	1.00			
発電機運転		日	0.50			B-1-1
クレーン付トラック		日	0.50			B-1-2
器具損料		日	0.50			B-16-1
計						

B-16-1 器具損料(中詰注入工)

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
グラウトホース		日	1.00			
ミキサー	200L 2.2kw	日	1.00			損料表
グラウトポンプ	7.5kw	日	1.00			損料表
計						

中詰注入方法によりグラウトポンプを使用します。

B-1-0 散水車運転

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
軽油		L				
一般運転手		人	0.30			
散水車賃料	2t車(4t車)	日	1.00			BB-2.5は4t車
計						

B-1-1 発電機運転

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
軽油		L				実働7h
発電機	60(125)KVA	日	1.00			BB-2.5は125KVA
計						

軽油は75%負荷時消費量とする。(60KVA=12ℓ/h・125KVA=22ℓ/h)

B-1-2 クレーン付トラック

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
軽油		L				
特殊運転手		人	1.00			
クレーン付トラック損料	4t車、2.9t吊り	日	1.00			損料表
計						

B-1-3 機械損料

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
推進機	BB-○	日	1.00			損料表
推進機ベース	BB-○	日	1.00			損料表
フランジリング損料	鋼管径	日	1.00			価格表参照
計						

土被りが8mを越す場合は数量を 1.15倍 にします。(段階的に補正有り)

フランジリング価格表

鋼管径	φ 400	φ 500	φ 600	φ 700	φ 800	φ 900
フランジリング価格	270,000	300,000	330,000	350,000	370,000	400,000
損料	6,245	6,939	7,633	8,096	8,558	9,252

B-1-4 キングストッパー損料

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
本体	鋼管径	日	1.00			損料表
ゴム(ダブル)	鋼管径	日	1.00			損料表
可動ジャッキ	鋼管径	日	1.00			損料表
計						

土被りが8mを越す場合は数量を 1.15倍 にします。(段階的に補正有り)

キングストッパー損料表

名称	諸元	基礎 価格 (千円)	耐用 年数 (年)	運転 日数 (日)	供用 日数 (日)	維持修 理費率 (%)	年間管 理比率 (%)	運転1日当り 換算値	
								損率($\times 10^{-6}$)	損料(円)
キングストッパー 本体	$\phi 400 \sim \phi 500$	1,691	2	80	140	80	10	11875	20,081
	$\phi 600 \sim \phi 700$	2,043	2	80	140	80	10	11875	24,261
	$\phi 800 \sim \phi 900$	2,347	2	80	140	80	10	11875	27,871
ゴム (ダブル)	$\phi 400 \sim \phi 500$	360	1	80	140	35	10	16876	6,075
	$\phi 600 \sim \phi 700$	420	1	80	140	35	10	16876	7,088
	$\phi 800 \sim \phi 900$	460	1	80	140	35	10	16876	7,763
可動ジャッキ	$\phi 400 \sim \phi 600$	400	2	80	140	80	10	11875	4,750
	$\phi 700 \sim \phi 900$	750	2	80	140	80	10	11875	8,906

B-1-5 ダンプトラック運転

1日当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
軽油		L				
一般運転手		人	1.00			
ダンプトラック損料		日	1.00			
計						

B-18 機械搬入工

1式当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	1.00			
特殊作業員		人	1.00(2.00)			BB-2.5の場合は2人
普通作業員		人	2.00			
一般運転手		日				
クレーン付トラック		日	1.00			B-1-2
クレーン付トラック損料	4t車、2.9t吊り	日				損料表
計						

B-19 機械搬出工

1式当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人	1.00			
特殊作業員		人	1.00(2.00)			BB-2.5の場合は2人
普通作業員		人	2.00			
一般運転手		日				
クレーン付トラック		日	1.00			B-1-2
クレーン付トラック損料	4t車、2.9t吊り	日				損料表
計						

B-20・B-21・B-22(接続工)は接続方法にて選択します。

B-20 本管(人孔)接続工(ハンドコア抜き工)

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				歩掛り表×孔数表
特殊作業員		人				歩掛り表×孔数表
普通作業員		人				歩掛り表×孔数表
はつり工		人				歩掛り表×孔数表
ハンドコア損料		孔				損料表 & 孔数表
コンプレッサー損料		日				歩掛り表×孔数表
諸雑費		式	1.00			労務費の5%
計						

シールド管接続時のハンドコア抜き施工は協議が必要です。

接続工(ハンドコア抜き工)歩掛り表

1孔当り

壁厚 名称	200mm以下	201mm ～300mm	301mm ～400mm	401mm ～500mm	501mm以上
世話役	0.007	0.010	0.013	0.017	★
特殊作業員	0.132	0.198	0.264	0.330	★
普通作業員	0.040	0.059	0.079	0.099	★
はつり工	0.026	0.040	0.053	0.066	★
コンプレッサー損料	0.026	0.040	0.053	0.066	★

★500mm以上の壁圧については協議が必要です。

ハンドコア孔数表

1ヶ所当り

挿入本管径	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450	φ 500	φ 600	φ 700
孔数	5	7	9	10	12	13	15	19	22

φ120mmのコアを20mmラップさせて、花びら状にくり抜いた時の孔数です。

(壁厚200mm時の基本孔数です)

壁厚により(撤去時の重量等考慮の為)一文字・十字のくり抜きを行う場合があります、孔数が増える場合があります。

ハンドコア損料表

1孔当り

壁厚	200mm以下	201mm～300mm	301mm～400mm	401mm～500mm	501mm以上
損料	9,800	14,700	19,500	24,500	★

高配筋等、特殊コンクリート構造物の場合は損料を1.2倍～1.5倍にします。

★500mm以上の壁圧については協議が必要です。

1ヶ所当り

接続工(はつり工)編成表

人孔の場合は上記表に右表の数値を掛ける。
本管の場合はさらに下記表の数値を掛ける。

1ヶ所当り(掛け率)

★501mm以上の壁圧については協議が必要です。

1ヶ所当り(掛け率)

さや管内からの施工は、50m未満となります。400m以上については協議が必要です。

B-22 本管(人孔)接続工(コア抜き工)

1ヶ所当り

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
世話役		人				編成表×歩掛り表
特殊作業員		人				編成表×歩掛り表
普通作業員		人				編成表×歩掛り表
コア抜き器具損料		式	1.00			B-22-1
散水車運転		日				歩掛り表&B-1-0
発電機運転		日				歩掛り表&B-1-1
クレーン付トラック		日				歩掛り表&B-1-2
ホイールクレーン	〇〇t吊り	日				立坑条件等により計上
機械損料		日				歩掛り表&B-1-3
4tトラック		台				BB-2.5車上フランクのみ
一般運転手		人				BB-2.5車上フランクのみ
諸雑費		式	1.00			労務費の5%
計						

接続工(コア抜き工)編成表

名称	員数
世話役	0.50
特殊作業員	2.00
普通作業員	1.00
コア抜きスクレー	1.00

上記表に右表の数値を掛ける。
 ヒューム管及び組立人孔の場合は歩掛りを0.9倍とします。
 土被りが8mを越す場合は数量を1.15倍にします。

(段階的に補正有り)

接続工(コア抜き工)歩掛り表

1ヶ所当り(掛け率)

推進距離 本管径	5m未満	5m以上～ 10m未満	10m以上～ 15m未満	15m以上～ 20m未満	20m以上～ 25m未満
φ 200	1.00	1.50	1.70	2.00	3.00
φ 250	1.00	1.50	1.70	2.00	3.00
φ 300	1.20	1.70	2.00	2.50	★
φ 350	1.20	1.70	2.00	2.50	★
φ 400	1.20	1.70	2.00	★	★
φ 450	1.20	1.70	2.00	★	★
φ 500	1.50	2.00	2.50	★	★
φ 600	2.00	3.00	4.00	★	★
φ 700	2.00	3.00	★	★	★

★500mm以上の壁圧については協議が必要です。

1ヶ所当り

★500mm以上の壁圧については協議が必要です。

1m当り

ヒューム管及び組立人孔の場合は損料を 0.6 倍 とします。

1本当り

本数は推進延長+1本です。